

■ 開設年度		■ 開講部局	
2011		共通教育	
■ 科目名			
環境教育・ESD入門I			
■ 英語科目名			
Basic Seminar of Environmental Education and ESD I			
■ 前後期		■ 開講区分	
前期		毎週	
■ 科目形態		講義	
■ 単位数		■ 大分類（科目）	
2		教養科目	
■ 中分類（分野）		分野3	
■ 受講学部学科			
全			
■ 担当教員		■ 担当教員所属	
萩原 豪		稲盛アカデミー	
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）	
099-285-3757		k6219828@kadai.jp	
■ オフィスアワー（授業時間外の対応）			
【オフィスアワー】毎週木曜日 3 時限目@萩原研究室			
オフィスアワーでの対応については、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください（ダブルブッキングを避けるため）。			
■ 共同担当教員			
■ キーワード1		■ キーワード2	
視野・判断力・探求能力		コミュニケーション能力と相互理解	
■ 授業概要（目的・内容・方法）			
〔背景〕2002年、ヨハネスブルグサミット（持続可能な開発に関する世界首脳会議）で日本政府とNGOが共同提案した「持続可能な開発のための教育の10年」は同年末の国連総会で採択され、2005年から2014年が「国連持続可能な開発のための教育の10年」として制定されました。世界だけではなく、日本でも学校現場や地域などで数多くの取り組みがなされています。 〔目的および方法〕本講義では「持続可能な社会」を構築するための手法のひとつとして注目されている、環境教育とESD（持続可能な開発のための教育）について、「気づき→考え→行動する」ことを目指した研究と実践を行います。受講生は必ずひとつのワーキンググループ（WG）に参加し活動をしてもらいます。WGで提案・実践する企画は「お金をかけず、誰でも簡単に手軽にできること」を提案し実践することにより、「持続可能な社会」を取り巻く問題群について情報発信し、この問題について足下から考えるきっかけをつくるものと位置づけます。本講義は前後期連続の少人数演習形式（受講者数35名以内）で行います。 〔内容〕WGはNESCU-SHORTと銘打ち、前期は(N)自然、(E)資源・エネルギー、(S)社会（企業）、(C)地域、(U)大学の5つをテーマにします。まずWGで問題の背景や現状等を整理・考察していった上で具体的な研究課題を決め、プロジェクトの企画書を作成してもらいます。企画書は授業内で精査していき、その企画を実際に2週間実施してもらいます。その後、かごしま環境未来館で研究報告会を行い、各プロジェクトの企画および活動結果について報告をしてもらいます。 〔参考例〕(U)大学WGでは、大学をエコ化するという大きな枠組みとして掲げた上で「ゴミ分別」について検討することができるでしょう。この場合、環境教育やESDの視点から「ゴミ分別」について考えるだけではなく、その背景として「どうしてゴミ分別が必要なのか」というところから考えることができます。最終的に「ゴミ分別」をとりまく状況を整理した上で、どのようにすればよいのか、ということを提案することができます。2週間の活動期間については大学構内を主たる活動場所にすることができます。（これはあくまでも一例です。）			
■ 学習目標			
(1) 環境教育やESDの国内外の動向を理解するとともに、環境問題について多角的な視点から考察していくことができるようになること。			

- (2) 自分の眼と耳と足で情報を探して作りだし、問題を発見・考察・分析・整理・発表するという社会人としての基礎技術の習得。
- (3) ワークショップやグループワークなどの協働作業を通じて、問題認識力およびコミュニケーション力の習得と、積極性や責任感の醸成。
- (4) プロジェクトの企画やレポート作成などを通じて情報収集力やITスキル（PCやインターネットの使い方）、文章力やプレゼンテーション力の習得。

■授業計画（15回に分け、回数、授業内容、自学自習等）

第1回目の授業はガイダンスを行い、履修希望者の関心がどのようなところにあるのかを確認していきます。その後の流れは以下のように考えていますが、受講生の関心や時事的なテーマなども踏まえて、その都度、柔軟に対応していきます。授業はワークショップ形式で行います（講義とグループワークを組み合わせます）。グループワークについては授業時間外にグループメンバーと連絡をとりあったり発表準備などの作業をする必要が出てくると思います。

- ・ガイダンス
- ・レポートの書き方、グループワークの進め方
- ・「環境」に関するグループディスカッション
（基礎的なもの、時事的なものを組み合わせる予定です）
- ・WGプロジェクト研究
- ・中間報告会（授業内）
- ・WGプロジェクト実践（2週間）
- ・研究報告会（かごしま環境未来館）
- ・ふりかえりと報告書作成

[授業時間外活動] 週末の時間を利用して正規の授業を行うことを計画しています。5月中旬：1泊2日の研究合宿（場所は桜島を予定）。7月中旬：プロジェクト研究報告会（かごしま環境未来館）。時期未定：環境教育施設見学会。これらは火曜4時限目の授業時間数に読み替えます。詳細については第1回目の授業（ガイダンス）でお知らせします。

■ 受講要件	■ 成績の評価基準
(1) 本講義のテーマに関心を持ち、自らが「持続可能な社会」に対する活動を実践したいと思っていること。 (2) 原則として、後期の「環境教育・ESD入門（2）」を継続して履修することを条件とします。（[その他]に記載している注意事項を確認してください。）	授業への参加度（授業態度やグループワークへの貢献度、企画運営への参画度など）：60%、課題等提出物（リアクションペーパーやレポート、研究報告会の資料・最終レポートなど）：40%、で総合的に判断します。学期末試験は行いません。 [注意] 次に該当する場合は評価対象外とします。(1) 出席が総授業数の3分の2未満の場合、(2) 研究報告会の後に提出する最終レポートの提出がない場合。

■教科書	■参考書
教科書は使用しません。必要な資料は授業で配布します。 課題作成のために必要な書籍は別に指定します。	参考文献として書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・webなど、身の回りにある情報源から日常生活に関することを幅広く取り上げていきます。参考文献一覧は授業中に配布しますが、主たる参考文献として次のものを挙げておきます。 (1) 阿部治・野田研一監修『あなたの暮らしが世界を変える 持続可能な未来がわかる絵本』山と溪谷社、2007年。 (2) 稲盛和夫著、鹿児島大学稲盛アカデミー編『稲盛和夫講義集』鹿児島大学稲盛アカデミー叢書 1、2010年。 (3) 今村光章編『持続可能性に向けての環境教育』昭和堂、2005年。 (4) 日本環境教育フォーラム編著『日本型環境教育の提案』小学館、2000年。 (5) 東京商工会議所編『環境社会検定（eco検定）公式テキスト（改訂2版）』日本能率協会マネジメントセンター、2010年。 (6) 降旗信一・高橋正弘編著『現代環境教育入門』筑波書房、2009年。
■その他	
[受講者数制限について] 受講者数は35名以内に制限します。履修登録人数が多い場合は抽選とします。この場合、第1回目の授業に出席した人に優先権を与えます。 [履修登録上の注意] 本講義は原則として前後期の通年履修を条件としています。専門科目と授業日程が重なる可能性があるため、必ず所属学部の事務室で後期日程を確認してから受講登録をしてください。なお後期履修ができない場合でも、本講義を履修希望する場合、事前に萩原（k6219828@kadai.jp）まで連絡をしてください。何らかの形で活動に参加することを条件に履修を許可することもあります。 [履修登録について] 履修希望者は第1回目の授業に必ず来てください。履修登録を行っても、第3回目までの授業に出席しない場合、自動的に履修登録を無効とします。	